虹

ニュースレター No.74 June 2015

MICかながわ

特定非営利活動法人
多言語社会リソースかながわ

〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町3-30-1
農機会館503
Tel：045−314-3368
Fax：045−342-7918
e-mail : mickanagawa@network.email.ne.jp
URL : http://mickanagawa.web.fc2.com/

座談会：MICの軌跡

2002年4月にMICかながわは誕生しました。設立以前、当時、直後からMICかながわに関わっている方たちに、思い出や将来への展望を含めMICへの思いをうかがいました。

出席者

- ●松野勝民理事長
  済生会神奈川県病院医療ソーシャルワーカー（MSW））
- ●岩元陽子副理事長・コーディネーター・英語通訳スタッフ
- ●古山季玲コーディネーター・中国語通訳スタッフ
  （台湾出身）
- ●細野紀代子コーディネーター・スペイン語通訳スタッフ
- ●アンヘル バルガス事務局スタッフ
  （ペルー出身）

進行

内藤まゆみ理事・事務局スタッフ・コーディネーター
タイ語通訳スタッフ

岩元さん

松野さん

■MICが生まれる前

松野　1990年頃だったか、県社会福祉協議会のボランティアセンター（以下ボラセン）にいた高橋元央さんから電話がかかってきたんですね。県内の外国人支援をしている通訳さんやボランティア団体を呼んでシンポジウムを開いたら、「もう絶対病院には行きたくない」「通訳は二度とやりたくない」「ストレスだ」という声がとても多かった。ボラセンが医療に特化した研修をやりたいので、手伝ってもらえないかということでした。

岩元　私、たまたまそのシンポジウムの席にいました。怒号が飛び交って収拾がつかない感じだったのを覚えています。でも、他人のことなのに真剣に話し合っているのがすごいと思ったんです。また、民間が行政に不満をぶつけるという場をあえてつくったボラセンもスゴイと思い、感激しました。

松野　1990年に厚生省から在留資格のない外国人には生活保護を適用しないという口頭通達があったのが、まさに僕が外国人医療に関わり始めたきっかけでした。当時からうちの病院（済生会神奈川県病院）は在留資格のない患者さんを診ることが多かったのですが、その中で生活保護を受けていた人をどうしたらい

いかと困ったのが最初で、外国人医療にはお金の問題から入ったという感じでしたね。保険がない。お金がない。病気やけがをしても病院に行けない。病院側もお金がないなら診ないという診療拒否のような状況も出てきたんです。それはおかしいと港町診療所の早川寛さんや沢田貴志先生とも話して厚生省にも行きました。でも、「オーバーステイの人というのは、いるはずのない人ですよね」で終わってしまいました。入管法上はそのとおりですが、現場のことはわかってもらえませんでした。

お金のこと以外で外国人医療の問題に直面したのは、ある韓国人の患者さんのときでした。重症肺炎で両肺が機能していない。2週間前に来たばかりで日本語は話せない。保険もお金もない。当時の院長がそれでも受け入れ許可を出してくれたのでホッとしたのですが、担当医から「ことばはどうする？」と言われてハッとしました。その時は通訳さんがいっしょに来てくれていたので、ことばのことは全然気にならなかったんですよ。通訳さんがいなくなったらどうしようということになり、救急センターの看護師に入院中にこの患者さんが訴えたいであろうこと、こちらが聞きたいことを書いてもらって、それを通訳さんに訳して書いてもらい、指さしで対応しました。検査結果を伝える時は通訳さんに来てもらいました。その後、それぞれの患者さんに合わせた10ヵ国語くらいのボードができました。指さしの本とか、必要なところを切り貼りして工夫して使っていましたね。

ボラセンの研修は、今のMICの養成研修と同じで、座学をやってシミュレーションをやるという形で、たくさんの人が集まったのでびっくりしました。2002年に横浜でワールドカップが開催されることになり、17ヵ国語の通訳を用意しないと開催できないということで、横浜市から研修を頼まれました。

古山　ボラセンの研修が終わった時、これは研修だけで、何かするわけではないといわれたんですよ。それからだいぶ経ってから横浜市のワールドカップの研修があって、研修を受ける方としては混乱していました。

松野　外国籍県民かながわ会議が2000年10月に医療通訳を制度化してほしいという提言を出して、県が翌年4月検討委員会を立ち上げました。そのときの県の担当が西村明夫さんで、その委員会に沢田先生と僕が入ったんですね。なかなか話が進まず、とにかく派遣してみませんか、そうしたら問題点も出てくるでしょうと、2002年8月から3ヵ月間モデル事業を行うことになりました。まず準備できる言語と病院を考えました。スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、タガログ語。この言語には既に活動していて信頼できる人がいたんですね。そして需要のある病院6病院。県の救急補填システムの請求の多い病院で、地域を偏らせず6病院が選ばれました。この制度を運営する団体をつくろうよということでMICがつくられたというわけです。

■MIC誕生

岩元　放送大学の卒論で神奈川県の外国人支援団体について書いたんですね。当時はバブルでオーバーステイの問題もありましたが、問題が起こり始めたときだったので、まだ文献はなく、支援団体がたくさん情報を持っていたという状況でした。そのために北村眞佐子さん（MIC初代理事長）にインタビューに行って、たまたま誘われたのが県社協のボラセンがやったシンポジウム。そしてその後MICを立ち上げますという会に参加して、

「事務所必要ですよね、専従が要りますよね、お金はどこから出るんですか？」と質問したら、早川さんが「走りながら考えるんですよ。」と答えたのが印象的でした。

松野　とりあえず動き出し、3ヵ月の約束で始めたモデル事業だったんですが、やめられなくなってしまったんですよ。このままやめられたら困ると病院側が言ってきて、その年度の残り5ヵ月分のお金を県がなんとかひねり出して持ってきてくれました。タイミング良く2003年から県のボランタリー活動推進基金をもらえたのがラッキーでした。まず病院にわかってもらうために、お試しという感じで使ってもらうことができましたからね。最初、英語は医者が話せるからいらないよね、と思われていたのですが、通訳が必要になるのは診察の場面だけではないということで英語も派遣言語になりました。病院が通訳がいないと治療が進まないということがわかってきたわけですが、ここまで伸びるとは正直考えていませんでした。

細野　2002年のモデル事業から登録して、MICに残っている同期はスペイン語では私一人だけです。当時スペイン語は既に先駆者がいました。少しお手伝いできるかなと思って入ったのですが、実際関わってみると医療通訳はなまやさしいものではありませんでした。幸いまわりに志に燃えた人が多く、私のように初めて関わる人間が「助けて」というと、あちこちから手を差し伸べてもらえた状況で、支えてくれる人がたくさんいて恵まれたスタートでした。経験がない分、聞くことすべてを先入観なく吸収できました。自己実現、社会的活動、社会貢献のできる組織に入れたことは嬉しく、そこで充分に活動できる人間でありたいと思いつつ今にいたっています。

細野さん

古山さん

古山　同じく2002年のモデル事業から登録して、中国語で残っている同期は他にいません。人を助けるとか深く考えたことはありませんでした。どこかの団体に所属していたわけでもありませんでした。自分の経験から医療通訳がいたらいいなぁと思っていました。医者と話すとき、自分の口から言うより誰かの口を借りた方が言いやすい時もあったからです。

横浜市国際交流協会（YOKE）に通訳として登録していたけれど物足りない感じで、医療では通訳はもっと必要とされるのではないかと思っていました。ワールドカップで知り合った人にモデル事業に誘われた時、時間があったしチャレンジしたいと思いました。ノウハウ、経験もなく、中国語の医療通訳は基盤がありませんでした。その時スペイン語の通訳たちからヒントをたくさんもらいました。医療通訳は次に何が出てくるのかわからないから毎回が楽しいです。でも、自分の中でのノウハウは蓄積できたけれど、それがいいかどうかはわからないですね。常に自分で見直していかないといけないと思っています。

岩元　2002年11月からコーディネーター、

2003年10月から英語通訳スタッフとして登録しています。当初コーディネーターブースはひまで、一日中1件も依頼がない日もありました。ある日、暇つぶしにパソコンでゲームをしていたら突然松野さんがブースに現れてあせったのを覚えています。やがて依頼が増え始め、2011年3月の東日本大震災後に一時的に減った以外は一貫して増えてきましたが、最近の激増ぶりはすごいです。今のブースの忙しさは異常ですね。

アンヘルさん

アンヘル　私の場合は、2002年、入院中に面会に来た松延恵さん（初代事務局長）に誘われて事務局ボランティアになりました。それより前のことですが、症状はだるい、疲れるとかあまり重い症状ではないのに、病院に行ったら、先生の話の中に「死ぬ」ということばが出てきました。日本語がわからない。頭が真っ白になりました。先生が一生懸命話してくれても、もう何も耳に入らなかったですね。1～2週間して、ボリビアに20年くらい住んでいたという看護師さんがスペイン語で話をしてくれました。それは、本当に助かりました。先生は「あなたはこの病気で死にます」と言ったけれど、でもその前に、「透析があります」、その前に、「薬があります」、その前に、「ダイエット」とか。私の理解は「死ぬ」から始まってしまった。自分の経験からMICは絶対必要です。今までずっとそう思っています。

■MICと13年間過ごして

松野　本業は病院のソーシャルワーカー（SW）なので、ことばの大切さはよくわかっています。一方、通訳を派遣しているNPOにいるのだから、ある意味離れられないという感じかな。活動しているとSWの会合でも済生会の松野というよりMICの松野という感じになっていますね。MICは実績もあるし、誇らしく思います。

アンヘル　日本語がわかるようになりました。会員の交流会とかも楽しい。みな、仲間として、外国人のためにそれぞれの立場で一生懸命やっている。そこが大切ですね。

岩元　こんなに勉強したことはないというくらい勉強しました。コーディネーターとしてブースに入るまでは、自分の医療知識が全く不十分だということすら気づいてなくて。病院からの依頼の電話に「アンギオ※1」「チュウチョウ※2」などという言葉が出てくるんですが、（ハ…？!）でも、知っていて当たり前のように言われると聞き返せない。これを知らなくてそこに座っているの？と思われそうで。

通訳としては、わかるまで聞き返すのが鉄則ですが、まだ通訳になる前だったので、そういう意識もなかったし、とにかく「チュウチョウ」と聞き取ったものを必死で辞書で調べる。それを通訳さんに伝えようとすると、「はい、注腸ですね」と、こちらが説明するまでもなく理解しておられるご様子。（コレデハ　イカン!!!）と、とにかく一生懸命勉強しました。2002年初年度登録の通訳さんたちは経験がある人が多く、本当にすばらしかったです。

※1 アンギオ　血管造影検査

※2 チュウチョウ　注腸検査

古山　自分自身が変わったと感じていないのは、今でもMICができた当時の気持ちでやっているからだと思います。通訳の

心得の10ヵ条はバイブルと同じ。通訳のやり方は当時と変わっていないけれど、今、世の中が変わっていく分、自分も対応していかなくてはいけないですね。

細野　私もスタート時の心得の 10 ヵ条は守っています。患者さんについて症状等は記憶に残しておくけれど、名前や顔は記憶に残さず、その場で完結するようにしています。医療通訳はプライバシーを守らなくてはいけないので、そこへは入り込まないように気をつけてきました。入念に下調べをした資料をかばんに詰めて、通訳現場に行きますが、通訳中これを取り出す時間はないのですから、できるだけ頭の中に詰めこむべきなのでしょうね。

MIC には毎年通訳者必須の現任者研修があります。数年前までは、病理学の名誉教授である故蟹沢先生による基礎医療講座もありました。通訳をするために学ぶことは必要に迫られた私の生涯学習でもあります。命にかかわることですので医療通訳に関連する事柄を学ぶため鋭意努力しています。

患者さんの心に寄り添いつつ、医療スタッフの方たちと良い関係を保ち、中立の立場で通訳を行うのが通訳者の使命です。より良い医療につなげられれば本当にすばらしいです。

アンヘル　皆、ボランティアの意識が強まっていると思いますね。最初は「試してみようかな」という気持ちが、時間が経つと、「誰かを助けると自分も気持ちいい」と思うようになる。それでボランティアを続けられていると思います。

細野　スペイン語通訳に多いリタイヤ後の人たちは、海外でいろいろな経験をしてきています。その方たちにとって MIC かながわは叡知が活かせる場になっているのではないでしょうか。蓄積された叡知を還元できるいい機会になっていると思います。

スペイン語に限らず、実社会での経験や叡知を活かすことは、少子高齢社会という人口構造に大転換が起こっている現在の社会の重要なファクターではないでしょうか。報酬が参加者のインセンティブではなくて、MIC の理念に賛同した人たちの 13年間の活動が残してきた実績が MIC の重要性を示しているのだと思います。

■MIC の今後

古山　MIC は 13年前から派遣の仕方が全然変わっていないですよね。時代が変わってきている中、他団体のやっている方法を採り入れるというのではないけれど、MIC も形を変える必要があるかと思います。効率的でないところを改善するとか。

人と人の間のことをするのはサービス業でしょ。ひとりの人をどのように大事にするか、お互い気持ちよくするためにはどうしたら良いか、いろいろなものを利用してやっていくのに今は良い時期ではないでしょうか。今と同じ形でさらに 5 年やるのか、今見えてきている無駄な部分を整理するとか、じっくり考える時期だと思います。

岩元　MIC は大きな組織になりましたよね。財政基盤は弱いけれど、県や病院とタッグを組んでやっている分、活動基盤は強いです。その分、方向転換するのは容易ではないですが、古山さんのいうことはよくわかります。今後これでいいのか、このまま続いてどうなるのか、考えなくてはいけないと思っています。

古山　派遣件数も通訳人数も MIC はどんどん大きくなってきて、支えられなくなるのは時間の問題ではないでしょうか。いろいろな事業に手を出しているのでは？MICはMIC現在のやりかたでいいと思いますが、中身の 3 分の 2 をレベルアップすればよくて、いろんなところに手をだすのはよくないですよ。結果的に余裕が出るわけでもないし、思った通りにはいかず、結局良くなるわけでもない…。

先週ブースに入っていて思ったのですが、一般通訳専門のコーディネーターをつくってほしいです。

岩元　そうですね。今の問題は、ベトナム語ですよね。依頼の数に対して、通訳者の人数、しかも動ける人が少ない。「行ける人がいません」と学校に連絡して「はい、そうですか」で終わればいいですが、学校はどうしても通訳がほしいので、「それでは何日ならよいか?」と聞いてくる。こちらは、ご自分の仕事の合間を縫ってボランティア活動に時間を割いてくれる通訳者の都合を聞く、学校側は保護者の都合を聞く、これを折り合わせる調整作業が延々と続きます。が、最終的に誰も派遣できなかったとなると、実績はゼロ。あの大変な労力と時間は煙のように・・・です。

古山　ひとつ提案ですが、MIC の中で、理事会と通訳スタッフはあまりつながっていないですよね。MIC は通訳スタッフがいなければ成り立たない団体でしょ。通訳スタッフが理事会に直接意見を言える投書箱みたいなものを置くのはどうでしょう。通訳スタッフがコーディネーターや事務局を介さずに直接理事会にものを言える仕組みをつくったらどうかと思います。理事会のメールアドレスをつくって。通訳さんの思いを把握できますよ。

岩元　例えば自分の言語ではない人からの投書があった場合、結局はその言語のコーディネーターとかに事情を聞くことになるかもしれない。情報を得るためにね。それはOK？

古山　理事やコーディネーターは言語を超えて考えなければならないと思いますよ。言語ごとに細かく分けることで見えなくなってしまう部分が出てきます。言語ごとに解決を委ねない方がいいかと思います。

岩元　確かに、当初少人数でやっていた時は、全部の通訳さんを相手にしているという感じはありましたね。通訳帰りの人がブースに寄ってこうだったああだったとひとしきり話していくこともあったし。

当初のマニュアルにはコーディネーターのするべき大事なことの上から何番目かに通訳さんへのフォローがありました。実際にそれに時間を割いていました。今のブースの忙しさではとても対応できません。

■MICの将来像

古山　2002年モデル事業のときの説明会では、「先が見えないけれど一応やってみる」と言われました。どこの病院にも通訳が入れる便利さがあったらいいですね。一番の理想です。今のMICは覚書を交わしていない病院には入れないところに引っかかります。

松野　今の時点では仕方ない。今すぐはむずかしいですね。

岩元　患者さんが「来て」というどこの病院にも行けるのは理想だけれど、通訳スタッフやコーディネーターなど人的資源は無限ではないので、どこかで妥協も必要かな。

松野　通訳の派遣体制、医療に限らず外国籍住民の生活支援について、最終的には国レベルで支えられるようなシステムができればいいなと思います。件数は確かに増えていて、実績にはなっていますが、これからのことを考えると、国・行政レベルで右を向いているのにMICだけ反対を向くのは難しいと思うし、状況に合わせてやらなくてはいけない時も来るのかなと思います。

MICは県内の外国籍住民の支援を残したままやっていきたいけれど、やり方は変わっていくかもしれない。派遣の仕方も工夫が必要になるでしょうね。

県もこの事業をなくすわけにはいかないというのはわかっています。MICがつぶれたらこの事業もつぶれるでしょう。なんとかやっていかなくてはいけないけれど、限界はあるだろうな。MICの形が変わったとしても、次につなげられる母体ができていて事業をつなげていけるということが大切ですね。神奈川県に住んでいる外国籍住民が安心して医療を受けられるような形が、MICを通さなくてもできればいいなぁということですね。

座談会を終えて

MICのイベント（報告）

●2015年度MICかながわ定期総会

日時：5月30日(土) 総会　13:30〜15:00　交流会　15:30〜17:00
会場：港湾労働者福祉センター（港町診療所2階）

正会員数：79名
直接参加：30名、書面表決：26名、委任状：7名（定足数確認時）

2014年度事業報告、決算報告、監査報告、2015年度事業計画、予算、役員改選、定款の変更の7議案は、特に大きな異議もなく無事承認されました。第6号議案役員改選の議案承認後臨時理事会を開催し、理事長には松野勝民現理事長が再選されました。

引き続き行われた交流会では、持ち寄った料理等を囲んで親睦を深めました。大ヒットした『アナと雪の女王』の主題歌「Let it go」を10ヵ国語で歌い、MICかながわらしい和やかな会となりました。

海外からのたより

このコーナーでは、海外での医療通訳経験やご自身の受診を経験した医療通訳スタッフやMICかながわ会員に感想を寄せていただいています。今号はお隣大韓民国ソウルのお話です。

ソウルアサン病院と私

柴弥生（MIC かながわ個人賛助会員）

初めまして！韓国ソウルに在住の柴弥生と申します。海外在住のため、MICの活動に参加できませんが、10年前に住んだタイとタイ語が大好きで、いつか皆様のように外国語で（私はタイ語で！）人の役にたつことがしたいと思い、勉強を続けながらMIC の活動を拝見しています。ソウルでは病院でボランティアをしており、もうすぐ2年目になります。今日はその韓国の病院のお話をしたいと思います。

ソウルアサン病院と国際診療センター（IHC）でのボランティア

アサン病院は現代グループに属する“韓国BIG5の病院”の一つです。韓国で9年連続“尊敬される病院”に選ばれ、地方からもたくさんの患者が訪れます。18階建て、東館西館新館に2,700の病床をもつ巨大な病院です。すぐ近くに漢江が流れ、春には土手が桜で満開になります。

この新館の一角にある IHC は、外国人専用の国際診療センターで、私はここでボランティアをしています。韓国は病院を 3 つに分け、患者は一次診療機関で初期受診し、必要ならその後三次機関で受診、アサン病院の専門科は三次機関です。IHC は外国人の患者のために一次機関の役目を担っていて、患者は専門コーディネーター（CN）が常駐し、予約から受診時の通訳、入院患者の対応などをこなしています。私は日本語、英語、タイ語のボランティアとして、専門科の受診や検査室への案内、薬や記録などの受取をサポートしています。

IHC では韓国在住の外国人の外来、入院のみならず、他国から来韓の上受診するメディカルツーリズムを受けています。アサン病院は特に移植部門に強く、他国から手術に訪れる患者、勉強にくる医師もたくさんいます。

そんな中、IHC に常駐する韓国では数少ない日本人の CN の方に、日本人に通訳する上で気をつけている点などを伺ったところ、まずは治療法の考え方に相違があるということ。日本人は一般的に、様子をみながら患者の意思に沿う治療や体の一部を少しでも残す治療を模索していくことを好むようですが、韓国では早くに病気の根本を絶つ治療（切る、抜く等）を選択することが多いようです。この相違を双方に通訳という形で伝えることは難しいことがあるそうです。また海外での受診にナーバスになっている患者の中には、いざ医師を目の前にすると症状や感じていることを言えなくなることもあることから、IHC で事前に話をして各科まで同行し、患者が少しでも症状などを思い出せる環境を作るなど、目にみえない気遣いをされています。

ソウルアサン病院

国際診療センター IHC の前で

韓国人と“奉仕”の精神

アサン病院では月曜から金曜まで、午前午後に分かれ1週間に約450人のボランティアが出入りしています。私は月曜午前で、主な流れは朝8：40にボランティアラウンジに集合。部屋に入るとすでにお揃いの黄色いガウンを着た人たちが座ってお茶を飲んでいます。お菓子が配られ雑談。

この「みんなで何かをする前にまずお茶を一杯」というのが韓国人らしく、こうすればどんな人たちと一緒に仕事をするのか、うちとけた雰囲気でできそうです。まずは朝礼。出欠をとり伝達事項や注意があり、朝礼の最後は全員総立ちで輪になって隣と手をつなぎ、今日もベストをつくします！と唱えて拍手。それらが終わると各持ち場へつきます。子どもへの本の読み聞かせ、カートで飲み物をサービスする係、受付での案内、機械での自動支払いのサポート等いろいろな仕事があります。大半はリタイアした方や家庭の主婦。また学生が不定期ではいります。韓国ではボランティアを中学校から単位の一つにして、“奉仕”という精神に力をいれているのです。

外国人との縁を大切に生きていく

私は主人の転勤に伴い、タイ、シンガポール、韓国とアジアでの生活が続いています。MICとの出会いはタイ人の友人の紹介で、「日本語－英語－タイ語医療用語集」(MICかながわタイ語医療通訳勉強会発行)を購入したこと。IHCのボランティアは私が受診したときに案内してくれたカナダ人に触発されて志願したことなど、外国人に縁を結んでもらうことが増えました。今も実際に自分が病院内を案内することで様々な国の人達と接する機会を得ています。そんな中、今私にできることを考えて、アサン病院の病院紹介パンフレットをタイ人の友人たちの助言を得ながらタイ語に訳してみました。まだカラーコピーで必要な人にお渡しする形ですが、韓国に来るタイ人の方達が病院を探す際などに参考になればと思います。

医療を通して様々な国の人との出会いがあり、だれもが健康で幸せな毎日を送ることができますように！！

MICかながわ会員活動『手芸部』からのお知らせ

梅雨の候、如何お過ごしでしょうか。じめじめした空気は鬱陶しいですが、植物たちにとっては恵みの雨の季節なのでしょう、花も緑も生き生きしているようです。

さて、去る5月30日(土)総会後の交流会では手芸部から景品を提供させていただき、手芸部紹介の時間もとっていただきました。日頃の活動についてと今年度の年間プロジェクト「吊るし飾り」についてお話しいたしました。

４月の「吊るし飾り」1回目は本などを参考にして、まず各々好きなものを作ってみました。洋布でもできる「小鳥とリンゴ」の回にはたくさんの方が参加してくださり、たくさんの可愛らしい小鳥とリンゴができました。3回目の６月13日（土）は華やかな「椿」と「桜」をちりめんで作りました。まだまだ手探り状態ですが、ああしてはどうか、こうしてはどうかと楽しく相談しながら進めています。

また、10月18日(日)藤沢教会のバザーに今年も出店することになり、そちらの準備も並行して進めていく予定です。詳細は追ってお知らせいたしますので、今年もMIC会員の皆様のご協力をお願いいたします。

次回活動は７月４日（土）13：30からMIC事務局会議スペースで行います。参加希望の方は事務局か手芸部メンバーまでお知らせください。お待ちしています。

＜手芸部一同＞

❀❀❀❀❀ 2014年度活動ご支援へのお礼 ❀❀❀❀❀

2014年度も会員の皆さまをはじめ多くの方々のご支援ご協力のおかげで活動を続けることができました。感謝の意を込め、2014年度（2014/4/1～2015/3/31）にご寄付をいただいた方々のお名前を掲載させていただきます。

（あいうえお順、敬称は省略します）

＜企業・団体＞

NPO 法人シャロームの家、キャピタル・インターナショナル株式会社、公益財団法人パブリックリソース財団、公益財団法人未来工学研究所、多文化共生・自治体政策研究会、橋爪建設株式会社、みなとまち健康互助会（MF-MASH）

＜個人＞

AKIKO HARRIS、岩本弥生、岩元陽子、内堀晴雄、梅原裕愛、大場史紀、奥本彬、小野悦子、金子葉子、草間久美、佐藤ペティー、佐野知子、鈴木妙子、鈴木法子、鈴木万里子、竹村哲夫、田中圭、田中孝一郎、タレス・ルルデス、鶴田光子、問屋正勝、内藤まゆみ、西垣幸代、後岡和代、早川寛、藤井郁美、藤井伸子、古山季玲、細野紀代子、松野勝民、三木紅虹、宮首弘子、宮澤イザベル、森内啓子、森田佐知子、森田直美、矢島健、矢島孝彦、その他匿名でのご寄付もいただきました。

＜MIC かながわイベント隊＞

カトリック藤沢教会バザー実行委員会、MIC 手芸部

＜賛助会費（寄付とみなされています）＞

個人賛助会員　141 人（160 口）、団体賛助会員　7 団体（77 口）

皆さまの温かいお気持ちに心から感謝しお礼申し上げます。いただいた寄付は活動に役立つよう大切に使わせていただきます。今後も末永くご支援ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

● 活動報告 ●

4 月 1 日(水)　TBS ラジオ収録　出演：松野理事長、佐藤ペティー理事・中国語通訳スタッフ
4 月 1 日(水)　横浜市役所にて特定非営利活動法人認定通知書受領
4 月 16 日(木)　コーディネーター会議
4 月 27 日(月)　MIC かながわ理事会
5 月 13 日(水)　MIC かながわ監査
5 月 17 日(日)　外国人無料健康相談会　於：カトリック貝塚教会
5 月 21 日(木)　MIC かながわ理事会
5 月 26 日(火)　在宅医療・介護への通訳派遣検討会議第 6 回
5 月 28 日(木)　コーディネーター会議
5 月 30 日(土)　MIC かながわ定期総会・交流会
6 月 19 日(金)　栃木県国際交流協会医療小冊子検討会議　委員派遣：松野理事長
6 月 25 日(木)　MIC かながわ理事会
6 月 26 日(金)　コーディネーター会議
6 月 29 日(月)　神奈川県消防学校専科教育救急科（第 1 回）教育訓練
講師派遣：星中国語通訳スタッフ、赤嶺スペイン語通訳スタッフ、ヒューバート会員
6 月 30 日(火)　在宅医療・介護への通訳派遣検討会議第 7 回

● 活動予定 ●

7 月 10 日(金)　埼玉県福祉部福祉保健課「支援・相談員研修会」講師派遣：三木 Co.・中国語通訳
7 月 11 日(土)　2015 年度第 1 回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修
7 月 31 日(金)　栃木県国際交流協会「多文化ソーシャルワーカー養成セミナー・外国人医療の現状と課題」
講師派遣：松野理事長
8 月 21 日(金)　栃木県国際交流協会「多文化ソーシャルワーカー養成セミナー・対人援助技法・面接技法」
講師派遣：鶴田会員
9 月 26 日(土)　医療通訳ボランティア養成研修第 1 回
10 月 3 日(土)　医療通訳ボランティア養成研修第 2 回
10 月 17 日(土)　医療通訳ボランティア養成研修第 3 回
10 月 31 日(土)　医療通訳ボランティア養成研修第 4 回

MICのイベント（報告）

●外国人無料健康相談会
カトリック貝塚教会（川崎市川崎区）

日時：5月17日（日）　11：00～16：00
内容：胸部レントゲン、血圧測定、尿検査、
歯科検査、身体計測、医師による問診、
栄養相談
受診者：41名（国籍　4ヵ国）
通訳派遣：2名
（タガログ語1名、英語1名）

MICのイベント（予定）

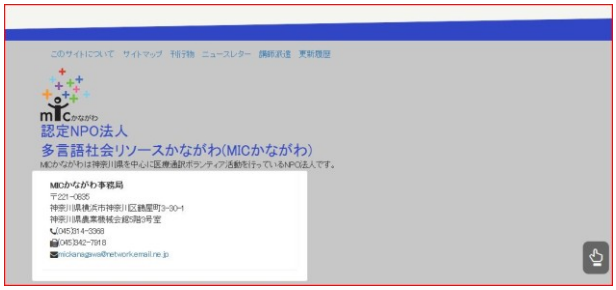
●2015年度第1回
医療通訳スタッフ・コーディネーター
現任者（登録者）研修

日時：7月11日（土）　13：00～17：00
会場：県立国際言語文化アカデミア
（最寄り駅　JR根岸線「本郷台」駅）
内容：
1. 退院時に必要な福祉サービスの基礎知識
講師：浦賀・久里浜第二地域包括支援センター
ケアマネージャー　山田裕美子氏
2. グループディスカッション
「医療通訳活動におけるルールの確認」

●外国人無料健康相談会
カトリック大和教会（大和市）

日時：9月27日（日）　12：00～15：00
内容：胸部レントゲン、血圧測定、尿検査、
歯科検査、身体計測、医師による問診、
栄養相談

MICかながわのホームページが新しくなりました。
英語・中国語・スペイン語のページもあります。
MICをよりたくさんの方に知ってもらえるよう、これからもわかりやすいホームページを目指して発信していきたいと思います。よろしくお願いします。
（2014年度事業報告書・決算報告書もアップしました）



～書き損じ郵便ハガキを寄付してください～

MICかながわへの寄付活動のひとつとして、書き損じ郵便ハガキの回収を始めました。
もし、ご家庭に書き損じハガキが眠っていましたら、ご寄付をお願いします。事務所にお送りいただくか、現任者研修の際に事務局スタッフにお渡しください。切手に換えて事務局での業務に利用させていただきます。
ご協力よろしくお願いします。

言語別自主勉強会情報（報告）

言語グループ	日　時	会　場	内　容
中国語	4月18日(土) 13:30～16:00	みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ	帯状疱疹について・痛みの表現
	6月6日(土) 13:30～16:00	みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ	介護保険について
スペイン語	4月18日(土) 13:30～15:00	みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ	感染症について
	5月23日(土) 10:30～13:30	鎌倉生涯学習センター	事例検討
	6月20日(土) 13:30～15:30	みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ	通訳向上のためのトレーニング法・情報意見交換
ポルトガル語	3月15日(日) 13:00～16:00	みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ	事例検討、表現が難しいことばの使い方　（前号に記載漏れ）
	5月16日(土) 13:00～16:00	鶴見国際交流ラウンジ	事例検討、診断書の表現方法
タガログ語	4月4日(土) 13:30～15:30	MICかながわ事務所	糖尿病ロールプレイ復習
	6月6日(土) 13:30～15:30	MICかながわ事務所	糖尿病ロールプレイ復習
タイ語	5月23日(土) 13:30～16:00	MICかながわ事務所	事例検討・今後の勉強会の形について
	6月27日(土) 13:30～16:30	MICかながわ事務所	事例検討・医療用語クイズ（消化器内科）
英語	5月24日(土) 13:15～16:45	横浜市西区社会福祉協議会	外科・消化器系、ロールプレイ

MICかながわは Twitter や
Facebook で情報を発信しています。
Twitter のアカウントは
@MIC_Kanagawa、
Facebookページは
www.facebook.com/Mickanagawaです。

Twitter や Facebook に
アカウントをお持ちの方は、
MICの活動や情報が
より多くの方に伝わるよう
ご協力をお願いします。

編集後記

座談会に参加してMICでの13年間を振り返り、懐かしさがこみあげてきました。初めの頃のMIC事務所は、事務局ボランティアが数名いて、中国語、韓国語、スペイン語、日本語が飛びかい多国籍の雰囲気に満ちていました。聞くことすべてが興味深く、「へぇ～、そうなんだ」の連続でした。(M.N)

MIC かながわは認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）です。
寄附は所得税での寄附金控除、または税額控除、いずれか有利な方の適用を受けることができます。
また、神奈川県にお住まいの方は個人県民税の寄附金控除の適用も受けることができます。

事務局からのお知らせとお願い

～2015年度会費納入のお願い～

●新規会員・継続会員の方

正会員：6,000 円

個人賛助会員：１口　3,000 円

団体賛助会員：１口 10,000 円

【会費振込先】

みずほ銀行　横浜駅前支店

普通3819349

口座名義：特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ

ゆうちょ銀行

口座：00270－2－55771

口座名称：MIC かながわ

～経費節減にご協力のお願い～

今後、MIC からのお知らせは E メールのみでかまわないという方で、その旨まだご連絡いただいていない方は、お手数ですが事務局までご一報願います。

ことばで支える

いのちとくらし

MIC かながわ

特定非営利活動法人

多言語社会リソースかながわ

〒221-0835　横浜市神奈川区鶴屋町

3-30-1 農機会館503

Tel：045－314-3368

Fax：045－342-7918

e-mail : mickanagawa@network.email.ne.jp

URL : http://mickanagawa.web.fc2.com/